

沿革	自治労共済のあゆみ	自治労事業本部のあゆみ
1962年	<ul style="list-style-type: none"> ●自治労第10回山口大会で、組織共済の方針提起 	
1966年	<ul style="list-style-type: none"> ●4月25日「全日本自治体労働者共済生活協同組合」設立総会 ●6月1日自治労共済総合共済I型(基本型 月額50円) 制度発足 ●出資金額 1口 50円 	
1968年	<ul style="list-style-type: none"> ●基本型「結婚給付」新設 	
1969年	<ul style="list-style-type: none"> ●基本型「複数口数制度」新設 	
1971年	<ul style="list-style-type: none"> ●総合共済II型(大型 月額500円) 制度発足 	
1973年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済A型(対人 1,000万円、対物 100万円) 制度発足 ●事故査定制度 14人で 	
1975年	<ul style="list-style-type: none"> ●火災共済(1,000万円) 制度発足 ●出資金額 1口 100円に改定 ●自動車共済B型(対人 2,000万円、対物100万円) 新設 	
1976年	<ul style="list-style-type: none"> ●総合共済I型(基本型 月額100円) 制度改定 ●事故査定体制県支部に移行完了 	
1977年	<ul style="list-style-type: none"> ●火災共済(2,000万円) に改定「風水害等」を加える 	
1978年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済C型(対人 3,000万円、対物 130万円、自損、無共済) 新設 ●自動車共済A型廃止 	
1979年	<ul style="list-style-type: none"> ●基本型加入者、100万人を突破 ●自動車共済C型に家族搭乗者傷害をセット 	
1980年	<ul style="list-style-type: none"> ●基本型の2口加入実施 ●自動車共済C型(対人 5,000万円、対物 200万円) 制度改定 ●火災共済の掛金を引き下げ 	<ul style="list-style-type: none"> ●自治労事業本部創立
1981年		<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済(普通死亡最高2,000万円、災害死亡最高4,000万円) 制度発足
1982年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済B型廃止 ●自動車共済C型(対人 8,000万円、対物 200万円) 制度改定 ●身体障害者用特殊自動車の加入範囲を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ●退職者火災共済制度発足 ●退職者生命共済制度発足 ●団体生命共済病気入院特約(日額最高3,000円) 新設
1983年	<ul style="list-style-type: none"> ●火災共済(3,000万円) の制度改定 ●火災共済の掛金を引き下げ 	
1984年		<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済(普通死亡最高3,000万円、災害死亡最高6,000万円) へ制度改定 ●団体生命共済病気入院特約(日額最高5,000円) 制度改定 ●長期共済制度発足 ●退職者火災共済掛金引き下げ ●つなぎ共済制度発足

沿革	自治労共済のあゆみ	自治労事業本部のあゆみ
1985年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済C型（対人1億、対物300万円）制度改定 ●火災共済引受口数を全労済と完全折半 	<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済「看護共済金」制度を新設 ●団体生命推進委員制度発足
1986年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済制度改定（掛金引き上げ、免責額引き上げ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済・子ども料率を引き下げ ●団体生命共済死亡共済金の年金払い制度新設（育英年金制度） ●長期共済の配偶者加入制度新設
1987年	<ul style="list-style-type: none"> ●指定整備工場制度を実施 ●夜間休日事故受付を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●行事・レクリエーション・海外旅行共済制度新設 ●団体生命共済病気入院特約B型制度新設
1988年	<ul style="list-style-type: none"> ●火災共済（4,500万円）制度改定 ●総合共済基本型（月額200円に重度障害給付を新設）制度改定 	<ul style="list-style-type: none"> ●野球チーム共済制度新設
1989年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済の第2次制度改定（対物500万円、免責額の引き下げ） 	<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済第1回再計算による制度改定を4月から適用 ●団体生命共済病気入院特約（免責期間の改善など）制度改定
1990年	<ul style="list-style-type: none"> ●火災共済の掛金を引き下げ 	<ul style="list-style-type: none"> ●学資共済制度発足
1991年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済相談員制度実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●行事・レクリエーション共済制度改定
1992年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済の第3次制度改定（対人無制限、対物1,000万円） 	<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済制度改定（普通死亡5,000万円、自宅療養見舞金など） ●病気入院特約（1日最高10,000円、成人病入院など）制度改定 ●バレーボールチーム共済新設
1993年	<ul style="list-style-type: none"> ●火災共済（6,000万円）制度改定 	<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済第2回再計算（予定利率を7%から6%へ）制度改定
1994年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済夜間・休日事故受付フリーダイヤル実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●終身生命共済制度発足
1995年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済の第4次制度改定（エアバッグ再装備特別見舞金を新設） 	
1996年		<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済第3回再計算（予定利率を2.75%へ）制度改定
1997年		<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済制度改定（事故通院共済金新設等）
1998年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済の第5次制度改定（家族搭乗500万円） ●自動車共済（愛車見舞金共済制度）制度発足 	<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済（医療保障・がん倍額型新設）制度改定
1999年		<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済第4回再計算（予定利率を1.5%へ）制度改定 ●長期共済・年金保障通増型を募集停止 ●長期共済（医療保障死亡弔慰金20万円から50万円へ）制度改定
2000年	<ul style="list-style-type: none"> ●総合共済基本型（月額300円に）制度改定 ●自動車共済の第6次制度改定（無事故優遇掛金制度） ●自然災害保障付火災共済制度発足 	

沿革	自治労共済のあゆみ
	新自治労共済発足 自治労共済と事業本部との統合
2001年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済独自の「夜間・休日事故受付センター」を開設
2002年	<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済制度改定実施（厚生労働省認可を受け生協事業化） ●コンプライアンス・マニュアルの策定、コンプライアンス諸規定の策定 ●行事レクリエーション共済など一部制度改定 ●長期共済制度改定（在職中の予定利率を1.0%へ、付加掛金を引き下げ） ●学資共済の一部を募集停止、団体生命共済の発効にあわせて終身生命共済を募集停止
2003年	<ul style="list-style-type: none"> ●「共済事業・労組事業の経営主体のあり方」について、長期共済などを2004年10月に全労済に契約移転する枠組みを決定
2004年	<ul style="list-style-type: none"> ●愛車見舞金共済が制度改定（見舞金限度額を100万円に） ●労組事業を全労済に契約移転、新長期共済（在職中の予定利率を1.25%へ）、親子共済が制度実施 ●労組事業閉鎖に伴い旅レク共済事業規約廃止
2005年	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害共済制度改定の実施（地震による保障限度額を1,200万円に引き上げ）
	創立40周年
2006年	<ul style="list-style-type: none"> ●「自治労共済40年史」刊行
2008年	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車共済の第7次制度改定（4月、人身傷害補償、愛車見舞金ワイド型の導入、24時間365日事故受付・ロードアシスタンスサービス実施など） ●長期共済「税制適格年金」を新設（7月）
2009年	<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済制度改定（7月、傷害入院・病気入院で「日帰り入院」保障実施、傷病諸費用特約新設など） ●全労済との統合を組織的に合意（8月）、基本合意書締結（9月）
2010年	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害共済・総支払限度額を引き上げ（4月、地震等1,700億円、風水害等400億円） ●自然災害共済・大型タイプを追加（7月、従来の標準タイプに加えて、大型タイプを新設し、最高保障額を風水害等4,200万円、地震等1,800万円に引き上げ） ●長期共済・適用事業規約を新団体年金共済に変更（12月、在職中の掛金累計限度を6,000万円に、退職後の組合員本人の年金年額の上限を120万円に拡大）
	全労済自治労共済本部誕生
2011年	
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ●長期共済 退職後共済（給付制限緩和）
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済・火災共済・自然災害共済・自動車共済の各事業を全労済へ事業譲渡し、契約を包括的に移転（6月） ●総合共済制度改定の実施（6月以降県ごとに実施）
2014年	<ul style="list-style-type: none"> ●自賠償共済の取り扱い開始（6月） ●臨時・非常勤等職員向けのシンプルパックが制度発足 ●退職組合員承認基準の緩和（12月）
2015年	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害共済・総支払限度額を引き上げ（2月、地震等2,700億円） ●住まいる共済（火災共済・自然災害共済）への制度改定（自治労管理県では9月以降県ごとに実施）
2016年	<ul style="list-style-type: none"> ●マイカー共済制度改定・団体割引率改定（2月、じちろうマイカー共済の団体割引は15%に拡大） ●長期共済 退職後共済の保障の充実（4月、医療保障・遺族保障に80歳満期型を新設） ●自然災害共済・総支払限度額を引き上げ（4月、地震等3,500億円） ●介護保障の取り扱い開始（退職者は4月以降、在職者は6月以降県ごとに実施）
	創立50周年
2017年	<ul style="list-style-type: none"> ●団体生命共済・長期共済・税制適格年金の加入上限年齢の撤廃・緩和（6月以降県ごとに実施） ●小口型団体生命共済の提供開始（6月以降県ごとに開始） ●早期退職者等の移行要件の改善（8月） ●退職者団体生命共済の取り扱い開始（8月）
2018年	<ul style="list-style-type: none"> ●自然災害共済・総支払限度額を引き上げ（4月、地震等4,500億円） ●団体生命共済制度改定（7月以降県ごとに実施）

沿革	自治労共済のあゆみ
2019年	<ul style="list-style-type: none"> ●マイカー共済制度改定（1月） ●総合共済・地震等の住宅災害見舞金に「大規模半壊」の区分を追加（2月以降県ごとに実施） ●自治労自動車共済制度終了（4月末） ●親子共済・満期共済金と死亡の際の保障額の引き下げ（8月発効以降の新規加入と追加加入より適用） ●子ども保障満期金付きタイプの取り扱い開始（8月） ●退職後共済 医療給付（移行掛金の見直し・支払要件の改善） 遺族給付（移行掛金の見直し）（8月以降の移行者より適用）＊医療給付の改善は、既移行者にも一部適用 ●介護保障制度改定・要介護2以上の一時金方式に変更（8月） ●シンプルバック制度改定（8月）
	こくみん共済 coop〈全労済〉自治労共済推進本部（組織変更）
2020年	<ul style="list-style-type: none"> ●マイカー共済制度改定（4月） ●個人賠償責任共済・支払限度額を引き上げ（4月、3億円） ●職域組織改革に伴い、事業推進を軸としたこくみん共済 coop〈全労済〉自治労共済推進本部に組織変更（9月）
2021年	<ul style="list-style-type: none"> ●マイカー共済制度改定 掛金体系・団体割引率・掛金水準の見直し（11月 じちろうマイカー共済の団体割引「職域掛金に対する15%」は「共通掛金に対する32.5%」へ）
2022年	<ul style="list-style-type: none"> ●じちろう団体生命共済抜本改正 掛金体系変更・医療保障改善・退職後保障見直し・全国統一メニュー体系の実現（6月 若年層の掛金引下げと中高年層の激変緩和措置実施、新がん保障特約と先進医療特約の新設、じちろう退職者団体生命共済の新設）
2023年	<ul style="list-style-type: none"> ●個人賠償責任共済制度改定（6月 被共済者の範囲拡大、非接触の電車等を運行不能にした場合の保障範囲の拡大）
2024年	<ul style="list-style-type: none"> ●住まいる共済制度改定（4月 風水害等の保障の改善、自然災害共済のタイプ名称の変更、自然災害共済の掛金の一部変更）